

好評連載中 …検査のはなし…

<中日新聞・東京新聞 毎週金曜日朝刊>

◇ 第 54 回 11 月 20 日 <妊娠したらー上> 風疹、トキソプラズマ抗体は？

妊娠が判明したお母さんには、さまざまな検査が待っています。血液検査、尿検査、超音波検査などがあり、採血などは少しチクッとして痛いですが、そこからさまざまな情報を得ることができます。

妊娠初期の血液検査では、風疹抗体、トキソプラズマ抗体の有無などを調べます。もしお母さんが妊娠前半期に初めて風疹、トキソプラズマ症にかかると、赤ちゃんに重大な障害(風疹は心臓奇形・聴覚障害など、トキソプラズマ症は脳炎・水頭症など)を引き起こす恐れがあるからです。

尿検査では、尿中に蛋白、糖、ケトン体、血液などが混じっていないかを通院のたびに調べていきます。尿を試験紙につけて色の変化を読み取り、さらに尿を遠心器にかけて下に沈んだ成分(尿沈渣といいます)を顕微鏡で調べます。

一回きりのプラスは生理的な要因の場合もありますが、検査のたびに数回続けてプラスになると、蛋白は妊娠中毒症、糖は糖尿病あるいは妊娠糖尿病などの可能性があります。

またケトン体は妊娠悪阻(重症つわり)、潜血は切迫流産のときにプラスとなることがあります。

次回は妊娠 12 週ごろの血液検査についてお話しします。

◇ 第 55 回 11 月 27 日 <妊娠したらー中> 血液調べトラフル防く

赤ちゃんが少し大きくなる妊娠 12 週ごろになると、妊婦さんの血液からさまざまなことを調べていきます。

まず貧血の有無や血小板数。妊娠すると生理的に血液が薄くなります。重い貧血状態になると、おなかの赤ちゃんに酸素がいきわたらなくなってしまいます。血小板数も少なくなると、出血しやすくなります。

感染症検査も重要です。エイズにつながる HIV、梅毒などの性病や、C 型肝炎ウイルス抗体、B 型肝炎ウイルス抗原、成人 T 細胞白血病ウイルス抗体などについて調べます。万一、陽性だと赤ちゃんに感染する恐れがあり、対応が必要になります。

また、安全に出産を行うためには、妊娠中から出産時の出血に備えて血液を確保する必要があります。それに備えて血液型や不規則抗体(輸血時に通常と違う反応を引き起こす抗体)の有無を調べておきます。たとえば、Rh マイナスの血液型のお母さんが Rh プラスの赤ちゃんを妊娠した場合、免疫反応によって溶血性貧血や黄疸が引き起こされることがあります。

次の出産に影響が出る場合もあります。血液型や不規則抗体を知ることが、妊娠のさまざまなトラブルを防ぐうえで重要です。

◇ 第 56 回 12 月 4 日 <妊娠したらー下> 安定期に感染症チェック

おなかの赤ちゃんが順調に大きくなり、安定期である 5 カ月ごろになると、クラミジア抗原検査、膈分泌物培養が行われます。クラミジア抗原が陽性なら、卵膜に感染した場合に流産、早産の危険性があるので治療が必要です。

また産まれる際に赤ちゃんに感染(産道感染)すると、赤ちゃんに結膜炎、クラミジア肺炎が起こる可能性があります。

膈分泌培養ではカンジダ膈炎や細菌性膈炎かどうかなどがわかり、こちらも治療をします。

血液検査では、貧血の検査に加えて空腹時(食後 2 時間以上の状態)の血糖値も調べていきます。尿検査で尿糖が数回続けて出ている人や、糖尿病と思われる症状がある人は、もう少し早い時期に検査しているかもしれません。

空腹時血糖値が高い場合は、75g²糖負荷テストを行います。まず空腹時の血糖値を測定し、次にブドウ糖の入った甘いサイダーのような液体を飲んでもらい、そこから 1 時間後、2 時間後の血糖値をそれぞれ測定し、空腹時、1 時間値、2 時間値の 2 つ以上が規定値を超えると「妊娠糖尿病」と判断します。こうした耐糖能異常は、ほとんどの例では、出産後に改善されます。

次号に続く…

第 48 回中部医学検査学会、三島市で開催…

第 48 回中部医学検査学会が、(社)静岡県臨床衛生検査技師会の担当で、11 月 7 日(土)・8 日(日)に三島市(三島市民文化会館)で開催されました。前日の 6 日から素晴らしいお天気に恵まれ、中部の各県から参加する会員を迎えるかのごとく富士山が雄大で感激しました。三島市は、水と緑と人が輝く夢あるまちとされ、伊豆国の一宮として、古くから栄えた三嶋大社があり、7 日、8 日には七五三の参拝で賑わっていました。うなぎのお店も多いそうで、学会参加者の中には地元の会員に聞いた美味しいお店でうなぎを食べたようです。

本学会は、テーマ「今日より明日！—基礎からさらなる創造—」とし、802 名の参加者を迎え開催されました。臨床検査技師の果たすべき役割について見つめ直し更なる発展へと繋げることを考え、語り合う学会となりました。

メインシンポジウムは、「精度保証 依頼から実施までの落とし穴」とし各臨床検査分野での検査結果に対する落とし穴やその対策の現状を報告、検査の全工程に精度が保証された臨床検査のあり方について考えました。

教育講演は、静岡県立静岡がんセンター総長の山口建先生をお招きして「がんという病気—患者・家族の心構え—」のご講演をいただきました。

文化講演は、「障害を乗り越えた全盲の奏者天来の声を聞く人」と称された、全盲のオルガニスト 大島彰氏のトークとコンサートが行われました。会場にはエレクトーンの音色が響きわたり、演奏された曲はほとんどの方が知っている有名な曲ばかりでした。といっても 50 歳代の人向けにとのコメントもありましたが…。コンサートということで、いつもの学会と少し感じの違った音楽による癒しの文化講演となりました。

学会期間中は、会員の活発なディスカッションがなされ、本学会が成功裏に終了できたのも、実務委員の方々、賛助会員・関係各位のご協力があったからこそと思います。ここに厚くお礼申し上げます。

来年の第 49 回の学会は石川県の金沢を予定しています。

【中部地区 梶山広美】

地区短信

